

# レベル分類への対応

令和3年12月1日

# ステージ分類からレベル分類の考え方へ

## ○総論

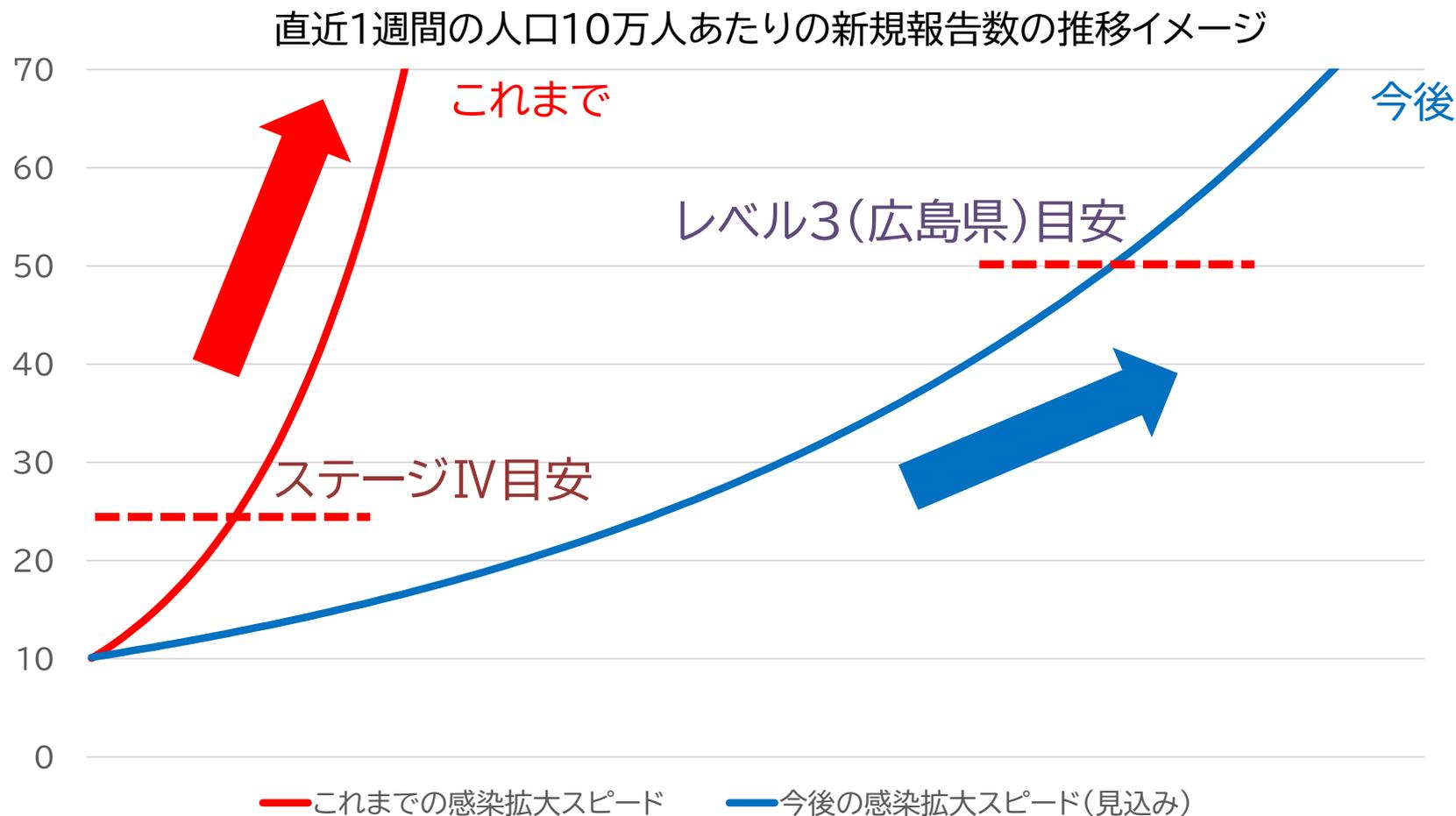
従来のステージ分類はワクチン接種が行われていない時期における対応であり、ワクチン接種等により、医療への負荷が少なくなってきた段階で、新たな考え方。レベル分類は感染の状況を引き続き注視するが、医療逼迫の状況により重点を置いている。

## ○ステージ分類とレベル分類の違い

段階	状況	段階	状況
ステージⅠ	医療提供体制に特段支障がない段階	レベル0	感染者ゼロレベル
ステージⅡ	感染者の漸増及び医療提供体制への負荷が蓄積する段階	レベル1	維持すべきレベル
ステージⅢ	感染者の急増及び医療提供体制における大きな支障の発生を避けるための対応が必要な段階	レベル2	警戒を強化すべきレベル (感染者増加傾向であり、医療体制への負荷が生じはじめている)
ステージⅣ	爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な段階	レベル3	対策を強化するレベル (一般医療を相当程度制限しないといけないと判断された状況。強い対策が必要)
		レベル4	避けたいレベル (一般医療を大きく制限してもコロナに対応できない状況)

※政府分科会資料を基に県作成

# 背景: ワクチン接種の進展による拡大速度の鈍化が予想



※モデル作成の  
御協力: 広島大学 疫学・疾病制御学。  
※ワクチン接種率(2回目)75%,  
ワクチン効果率50%と仮定。

# 分科会参考指標(具体的対応)

## ○各レベルでの都道府県の対策

各レベルで必要な対策を機動的に講じるタイミングについては、各都道府県が“予測ツール”(※1)及びこれまで用いてきた様々な指標(※2)の双方を用いて総合的に判断。

※1:公開されている予測ツールやその他の推計。

※2:新規陽性者数、今週先週比、PCR陽性率、病床使用率、重症病床使用率、入院率、自宅療養者数及び療養等調整中の数の合計値、重症者数、中等症者数、感染経路不明割合等のその他の指標の推移。

## ○レベル1からレベル2

移行の指標及び目安は、地域の実情に合わせて、保健所の逼迫も考慮し、病床使用率や新規陽性者数も含め、各都道府県が具体的な数値を設定することが考えられる。

その際、新規陽性者数自体は、これまでと同じ値であったとしても、ワクチン接種率の向上等により、これまでよりも医療への負荷が小さくなっていることに留意する必要がある。

各都道府県は、見える化(※3)を通して感染の状況を定期的に予測。

※3:“予測ツール”や上記の様々な指標や、保健所ごとの感染状況の地図(厚労省アドバイザリーボードで提示)などの利用

## ○レベル2からレベル3

移行については、この「3週間後に必要とされる病床数」が各自治体において確保病床数に到達した場合又は病床使用率や重症病床使用率が50%を超えた場合に、都道府県が総合的に判断する。その際には、感染状況その他様々な指標も併せて評価する必要がある。

※政府分科会資料を基に県作成

# レベルの概要について(案)

レベル	目安
レベル0	2週間程度連続して新規感染者0
レベル1	
レベル2	新独自警戒基準値 1週間の人口10万人あたり新規報告数10~15人 ※感染スピード等を考慮し判断
レベル3	次のいずれかに該当 ①確保病床使用率50%超え ②確保重症病床使用率50%超え ③3週間後に確保病床使用率100%超えと予測 (参考値 1週間の人口10万人あたり新規報告数50人)
レベル4	次のいずれかに該当 ①確保病床使用率85%超え ②重症確保病床使用率85%超え ③1週間後に確保病床使用率100%超えと予測

新独自警戒基準値を超え、  
レベル2移行後は  
レベル3に至らないよう、  
対策を行う

※数値は目安であり、感染状況や  
医療のひっ迫状況等を考慮し、  
総合的に判断

# レベル2以降の対策と実施タイミング(案)

レベル2以降は病床使用率の予測を目安に, 参考値も踏まえながら, レベル3に至らないよう, 対策と実施タイミングを総合的に判断

目安: 病床使用率予測	参考値: 感染状況※	参考値: 病床使用率	アクション
	10~15 (新警戒基準値)		レベル切り替え (1⇒2)
3週間後に50%と予測	25	25%	状況について, 国と密に コミュニケーション
2週間後に50%と予測	30	30%	県独自対策(外出自粛要請 等) 国に対策要請
50%に到達	50	50%	レベル切り替え (2⇒3)

※直近1週間の人口10万人あたりの新規報告数  
病床使用率は, 感染者の年代構成等で変動幅があるため,  
感染状況が先行して悪化する可能性もある。

# レベル判断と対策 全体像(案)

区分	レベル0 感染者ゼロ	レベル1 維持すべきレベル	レベル2 警戒を強化すべきレベル	レベル3 対策を強化すべきレベル	レベル4 避けたいレベル
概況	ゼロを維持できている	安定的に医療が対応できている	新規感染者が増加傾向で、医療の負荷はあるが段階的な病床増で対応できている	一般医療を相当程度制限しなければ医療が適切に対応できなくなると判断された状況	一般医療を大きく制限しても医療が対応できない
措置等	<b>【総合的な対策の継続】</b> ・検査、サーベイランス ・積極的疫学調査 ・ワクチン接種、接種率向上 ・積極ガード店ゴールドの普及		<b>【警戒の強化】</b> ・感染リスクの高い行動回避の呼びかけ ・検査の拡大 ・感染拡大防止に必要な対策 ・レベル3で行う対策の準備	<b>【対策の強化】</b> ・県民、事業者へ強い呼びかけ ・まん延防止等重点措置 ・緊急事態措置 ・VTPの継続・停止の検討	・災害医療的な対応 (国の支援、調整)

行動制限の要請等	・外出等 (学校行事除く※1)	○基本的感染防止策の徹底 ○テレワーク、時差出勤の取組等	同左 (一層の周知)	<b>【対策方針】</b> 感染のピークを低く、早くピークアウトさせ、適切なタイミングで対策を実施	○外出の半減や、混雑した場所、感染リスクの高い場所への外出自粛など	○外出自粛も含めたより強い要請
	・他地域との往来 (学校行事除く※1)	○基本的感染防止策の徹底	○感染拡大地域との往来は慎重に判断 (大都市圏から地方部への拡大を抑制)		○最大限、自粛 (VTP適用 ※2)	
	・飲食店の利用 ・施設の使用	○積極ガード店ゴールドの利用 ○業種別ガイドラインの遵守	同左 (一層の周知)		○飲食店の営業時間の短縮等 (※3) ○飲食店での同一グループ・同一テーブル人数制限 (VTP適用 ※2) ○施設への入場者の整理 など	○休業要請や施設の使用停止も含めたより強い要請
	・催物 (イベント) の開催 〔広島県におけるイベントの開催条件について〕	○参加人数の制限 ※ 感染防止安全計画の策定 チェックリストによる対策 ○業種別ガイドラインの遵守	同左 (一層の周知)		○参加人数の制限 (強い制限) (感染防止安全計画の策定、チェックリストによる対策 ※2) (VTP適用 ※2)	○中止も含めたより強い要請
	その他	○早期の受診・検査	○感染不安を感じた者への検査		○出勤者数の削減 など	○出勤者数の大幅削減

※1 学校については「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生マニュアル」を踏まえた対応を行う。  
 ※2 「感染防止安全計画」：参加人数制限の緩和を希望するイベント事業者等が、具体的な感染防止策を定め、都道府県に提出し確認を受ける。  
 「VTP」：ワクチン・検査パッケージ制度 (飲食店やイベント主催者等の事業者が、利用者のワクチン接種歴又は検査結果の陰性のいずれかを確認する。)  
 ※3 まん延防止等重点措置の場合は、認証店に21時までの営業(酒提供可)、非認証店に20時までの営業(酒類禁止)の要請を想定  
 緊急事態措置の場合は、休業又は20時までの営業(酒類禁止)の要請を想定。ただし、知事の判断により認証店には21時までの営業(酒提供可)を要請する場合もある。